

## 家庭・学校・地域の連携強化

### P T A と地域の協働で築く「みんなが輝く」学校

春日井市立大手小学校 P T A

#### 1 はじめに

本校は、昭和 51 年 4 月に開校し、令和 7 年度に 50 周年を迎えた。愛知県春日井市の北西部に位置し、住宅地と田畑に囲まれた落ち着いた環境である。学校規模は、児童数 545 名、学級数 24 学級（通常学級 19、特別支援教育 5）、P T A 会員数 413 名である。「なかよく 明るく たくましく」の校訓のもと、児童たちは広々とした芝生広場と運動場で、毎日元気に学校生活を送っている。



【大手小学校校舎】

#### 2 研究への取組

##### (1) P T A 組織

本校の P T A は、役員 9 名、学年委員 18 名、地域委員 18 名で構成されている。学年委員は、研修部・広報部・保健厚生部のいずれかに所属し、それぞれ活動をしている。

役員	—— 会長、副会長、家庭教育委員長、書記、会計
学年委員	—— <u>研修部</u> …ふれあい教育セミナーの開催 —— <u>広報部</u> …広報「かえで」の発行 —— <u>保健厚生部</u> …給食試食会の開催 ソフトバレーボール活動
地域委員	—— 各地区の登校見守り活動の当番表の作成

##### (2) 研究のねらい

本校 P T A は、コロナ禍で縮小した活動を見直し、子どもたちが安心・安全に学校に通えること、そして一人ひとりの笑顔が輝く教育環境を作ることに重点を置いた。P T A と地域が連携・協働し、春日井市の教育大綱にある「みんなで育み、みんなが輝く」を実現させようという共通理解のもと、地域に根差した P T A 活動を目指し、研究のねらいとした。

#### 3 実践活動の概要

##### (1) 地域連携の基盤となる組織づくり

これまで本校の教育活動は、校区の各団体からの温かい支援

に支えられてきたが、その連携は学校と各団体との個別のつながりとどまっていた。学校教育をより広範な視点から支えるため、新たな連携の枠組みとして、学校地域連携協議会を立ち上げた。協議会には、各区長、地域の児童見守り団体「セイフティ大手」、地域のスポーツ活動を推進する「スポーツ振興会」、在校生・卒業生の保護者で地域を盛り上げる「親地の会」といった地域を代表する団体に加え、PTAからは会長と副会長が参加した。協議会の立ち上げによって、学校やPTAだけでは対応が難しい課題を地域全体で検討することが可能になった。



【学校地域連携協議会の様子】

(2) 地域と協働する安全・安心な学校づくり

① 登校見守り活動

本校のPTA登校見守り活動は、校区内の11箇所の交差点や横断歩道で毎朝実施している。地区ごとに地域委員が当番表を作成し、原則的にすべての保護者で当番活動をしている。

本校の見守り活動はセイフティ大手との協働に支えられている。セイフティ大手は、安心・安全まちづくりモニターや民生委員、町内会の交通指導員等、地域の様々な立場の方々に組織され、毎朝10数名の方が協力してくださっている。PTAとセイフティ大手により手厚い見守り活動を行うことができる。



【交差点での登校見守り】

② こども110番の家ウォークラリー

子どもたちが「いざ」という時の避難場所を知り、自分の安全を守る意識を高めることを目的として、研修部主催の「こども110番の家ウォークラリー」を実施した。校区内の2つの公園をスタート地点にし、チェックポイントで交通安全クイズに挑戦しながら、ゴールの学校を目指した。



【チェックポイントの様子】

当日は、交差点や横断歩道における交通安全の見守りをセイフティ大手が、チェックポイントへのクイズの設置等を親

地の会が担当してくださった。セイフティ大手と親地の会の協力によって、子どもたちの安全を地域全体で考える良い機会となった。

### ③ 避難所宿泊体験

いつ起こるかわからない災害に備え、子どもたちが冷静に行動できる力を育むことを目的として、研修部主催の「避難所宿泊体験」を実施した。

体験の冒頭では、校区在住の消防署員の方を招いて、能登半島地震の被災地に派遣されたときの経験を話していただいた。

その後、親地の会の協力で、段ボールベッドの組み立てや発電機による発電、間仕切りの設置等を行った。夜は家族ごとに間仕切りの中で就寝し、翌朝には非常食のアルファ化米等を試食した。子どもたちだけでなく、保護者や地域の防災意識の醸成に繋がる意義深い取組となった。



【就寝スペースを作る様子】

## (3) 地域との交流を深める活動

### ① スポーツフェスティバル（体育的行事）の地域種目

子どもたちと地域の方々の交流を深めるため、スポーツ振興会と協働して、スポーツフェスティバルで地域種目を計画した。5・6年生と地域の方々が混合チームを組んで大玉送りを行い、競技後にハイタッチが見られる等、心を通わせるよい機会となった。親地の会にも審判等で協力していただき、PTAだけでは難しかった競技を地域の力で実現することができた。令和7年度のスポーツフェスティバルでは、PTAと地域で、ラジオ体操にも取り組む予定である。



【東西対抗！大玉送り】

### ② 親子ドッジボール大会

研修部と親地の会の共催で、親子ドッジボール大会を開催した。6年ぶりの開催となり、100名を超える参加者が集まった。6月のさわやかな風が吹く芝生広場で、たくさんの家族が心地よい汗を流し、笑顔で交流を深める貴重な機会となった。



【芝生でドッジボール】



P T Aと親地の会の役割分担が円滑にいく等、6年ぶりの開催が成功に終わり、その後の連携の土台となった。

### ③ 中学校ブロックのソフトバレーボール大会

P T Aのソフトバレーボール活動は、コロナ禍で新規メンバーの募集をしていなかったため、規模が縮小していた。しかし、令和5年度に中学校ブロックの大会が開催されることを受け、保健厚生部が中心となって新規メンバーを募った。長年活動を支えてきた地域の方々と、新しく加わった保護者や教職員が共に汗を流し、貴重な交流の機会となった。



【大会当日の様子】

### (4) 教育活動への地域人材の活用

本校では、子どもたちの豊かな学びを支えるため、登録制学校ボランティア「大手小サポーターズ」を立ち上げて、教育活動への地域人材の活用に取り組んでいる。大手小サポーターズの募集は、町内会の回覧板等を通じて行った。現在約40名の地域の方が登録をしている。



【図書館ボランティア】

ボランティアを募集する際は、P T Aと大手小サポーターズの両方から募った。具体的には、図書館の本の修理や飾り付け、クラブ活動の指導、家庭科の調理実習・裁縫実習の補助、花壇づくり、読み聞かせ、登校支援室の補助等でボランティアを募集した。保護者と地域の方が共に活動することで、協働意識を高めることができた。今後も「できるときに・できることから・少しずつ」を合言葉に、地域人材の活用を進めていく。

## 4 おわりに

本研究を通して、P T Aが学校と地域をつなぐ架け橋となり、多くの協働活動を実現することができた。スポーツ等の交流で深めた良好な関係を生かし、登校見守り活動や防犯・防災の活動に取り組むことで、子どもたちの安心・安全を守り、笑顔を育むことができた。学校地域連携協議会や学校ボランティア「大手小サポーターズ」は、本校の教育活動と教育環境を地域全体で支える基盤となった。今後はさらに多くの地域住民の関りを創出し、子どもたちの健やかな成長を地域全体で支え続けたい。